

日本グループ・ダイナミックス学会会報

ぐるだいに

発行所／福岡市中央区天神一丁目西日本新聞会館十四階

集団力学研究所内・日本グループ・ダイナミックス学会

発行人／三隅二不二・編集担当／黒川正流

1994年4月25日
第3号

改正会則が発効・新名簿の整備が急務 学会若返りと活性化をめざす新規定

まだ間に合う新入会員の九州大会発表

昨年十月の第四十一回大会で可決された本学会会則改正案は、このほど会則細則とともに所定の手続きを経て発効した。発効日は一九九四年四月一日付となる。

第四十一回大会の総会出席者は会員総数の過半数に満たなかったため、議決の内容が全会員に十二月七日付文書で公告され、その後一ヶ月以内の文書による反対は皆無であった。反対が過半数に達しない場合は総会決議としての効力を発することになる(旧細則十一条)。

主要な改正点は本紙二号で解説した通り、役員選出方法に関する事項である。本年度の大会開催期日が十月二二・二三日に決定しているため、新会則に基づく役員改選は九月中旬に完了しなければならず(新細則一八条)、会員による郵便投票は七月中に行われる模様。

今回の選挙では、全国区理事四名(四十歳未満の者二名と年齢にかかわらず二名)、監査一名、および地区別理事一名を投票することになる。なお会長については今回は暫定移行措置として理事の互選によって選出されるが、一九九六年実施の選挙からは会員の直接投票で選出されることになる。

会員の所属地区の確定や四十歳未満／

以上の識別が必要となるため、選挙台帳の基本になる会員名簿の大幅な更新が行われる。学会事務局では、名簿更新のための照会を行うが、会員諸氏全員からの正確で迅速な応答を強く要望している。

今年の学会発表に間に合う入会手続き

第四十二回学会大会(十月二二・二三日・九州大学)の発表資格者は、本年四月末現在で平成六年度会費納入済みの会員とされているが、大会準備委員会と理事会では大学院進学者などの事情を考慮して、五月十四日に開催予定の常任理事会の審査通過者にも発表資格を認めることにした。ただし、大会発表申込みは所定通り四月三十日までに行っておく必要がある。入会審査前に発表申込みができることになった。

大会準備委員会では、既会員が周辺の大学院生等に入会と学会発表を勧誘してくれることを期待している。なお、改正会則六条によれば、入会希望者は所定の書式により正会員一名の推薦と経歴資料を添えて学会事務局(福岡市)に申し込むことになっている。(入会申込用紙は本紙に同封する。入会希望者にはこの用紙を適宜複写して渡していただきたい)

◎研究奨励賞選考委員の改選

委員長に末永氏を選出

若手研究者による優れた原著論文に贈られる日本GD学会研究奨励賞の選考委員が理事によって選挙され、二月二十六日常任理事会で開票の結果つぎの十名が選出された。(敬称略)

大坊郁夫、黒川正流、大淵憲一、長田雅喜、白樫三四郎、末永俊郎、杉万俊夫、鈴木康平、山岸俊男、山口勲。規定によりこのメンバーに実験社会心理学研究編集委員長(三隅二不二)が加わる。

また、選考委員長には委員の互選により、末永俊郎氏を選出した。

委員の任期は二年で留任はできない。今年は「実験社会心理学研究」三三巻(一九九三年度)に掲載された投稿受付時点で三五歳未満の執筆者(共著の場合第一著者が授与対象)による原著論文が審査対象となり、四十二回大会時の総会の席上で発表される。実杜心研掲載審査時の評価をクリアした今回の候補論文はつぎの六編である。

本年度「研究奨励賞」候補論文

(実杜心研三三巻掲載・第一著者のみ)

○神信人・他2「ネットワーク型四人のジレンマの実験的研究…PD関係におけるコミットメントの形成」(21-30)

○野波寛「自己犠牲的行動スタイルをとるマイナリティが個人の順應度的行動に及ぼす効果」(1-31-40)

○坪田雄二「原因帰属が社会的比較によって生じる嫉妬感情に与える影響」(1-60-69)

○丸山純一・他9「学校組織の制度化に関する研究—中学校校則の内容分析に基づいて—」(2-89-100)

○金城亮「リーダー行動と集団成績がリーダーシップ評定と結果の原因帰属に及ぼす効果」(2-155-167)

○高井次郎・他1「Assessing Japanese Interpersonal Communication Competence」(3-224-236)

◎広島実社会心研合評会特別企画

バーンシユタイン教授夫妻を囲んで
広島実験社会心理学合評会(通称)は
別項の通り大学院生を中心にはば月一・
二回の割で雑誌論文の合評活動が続け
ている。このたび特別企画として、来日中
のミシガン大学集団力学研究センター教
授バーンシユタイン博士の来広を機に、
「バ博士夫妻を囲む小講演とミニ・パ
ーティ」を開催する。東京や関西地区に比
べて刺激の少ない広島地区の社会心理学
者の参加を主催者は呼びかけている。

▽日時・四月三十日(土)午後三時
▽場所・広島大学総合科学部A棟二階
▽演題(仮)・アメリカにおける小集団
研究の現状
▽講演後、ビールやワインを片手にデイ
スカッションと懇親のミニ・パーティー
▽参加自由・連絡先・〒724 東広島市鏡
山・広島総合科学部・坂田桐子(電話
0824-24-6578) FAX 0824-24-0759

◎京都大学社会心理学コロキウム

京都大学総合人間学部人間情報論分野
では、昨年度に引き続き社会心理学とそ
の境界領域の講演会を予定している。場
所は左京区吉田二本松町、総合人間学部
の教室、金曜日の三時から二時間ほどの
予定。研究者、学生を問わず多くの方々
の参加を歓迎。

*一九九四年度前期スケジュール予定
▽五月一日 大澤真幸(千葉大学・社
会学)「無意識の発見」
▽五月二十日 ユージン・バーンシユ
タイン(ミシガン大学・社会心理学)
演題未定
▽五月二十七日 渥美公秀(神戸大学・社
会心理学) 演題未定
▽六月三日 吉川左紀子(追手門学院大
学・認知心理学)「コミュニケーション
と対人認知」
▽六月十日 遠藤雄三(奈良女子大学・
社会心理学)「社会と医療」
▽六月十七日 北山忍(京都大学・社会

心理学)「文化、自己、感情」

▽六月二十四日 菅原和孝(京都大学・文
化人類学) 演題未定
▽七月一日 Anne Fernald(スタンフォ
ード大・発達心理学) 演題未定
▽七月八日 未定
プログラム希望者は四月の下旬に返信用
の封筒を添えて、〒606 京都市左京
区吉田二本松町 京都大学総合人間学部
人間情報論分野・北山忍 まで請求のこ
と。FAX:075-753-6559

◎日本GD学会関西地区研究会

第九回関西フォーラム開催
今回はミシガン大学バーンシユタイン
教授の講演を予定している。関西地区に
限らず、集団研究に関心のある方の多数
の参加が待たれている。
▽日時・五月二日(土) 一五—一七時

GD会員へのお誘いと報告

研究集会・地域別合評会①

▽会場・神戸大学文学部視聴覚教室
▽講演者・Eugene Burnstein 教授
(Research Center for Group Dynamics,
University of Michigan)
▽演題(仮) Group Dynamics in the US
講演は英語で行われるが随時日本語に
よる要約を加える。講演後はバ教授を
囲んでミニ・パーティー(三千円程度)
を開き飲物を片手にディスカッション
を行う予定。
▽参加希望者は講演後のミニ・パ
ーティへの出欠も含めて五月十三日(金)ま
でに渥美助教へ葉書で連絡のこと。
▽連絡先・〒657 神戸市灘区六甲台町一
神戸大学文学部社会心理学研究室・渥
美公秀 TEL:078-803-0455-0476
FAX:078-803-0486
E-mail: atsuni@icluna.kobe-u.ac.jp

◎木下富雄先生京都大学退官記念

国際シンポジウム「社会的認知と
コミュニケーション」

前京都大学総合人間学部部長木下富雄教
授の京大退官記念国際シンポジウムが六
月中旬に開催される。木下教授の退官は
昨年三月であったが、総合人間学部発足
に伴うご本人と送り出し側の繁忙のため、
一年余のタイムラグが生じたとのこと。

▽日時・一九九四年六月一八日(土)
▽場所・京都大学総合人間学部
▽内容・十時から Burnstein, Eugene
(The University of Michigan) "Cogn
ition and Interpersonal Communicat
ion", コメンテーター・杉万俊夫
(University of Michigan) "Mother-infant Communi
cation in Cross-cultural Perspecti
ve", コメンテーター・北山忍

・三時十五分から 木下富雄(摂南大学)
「科学技術・そのリスクと社会的受容」
コメンテーター・池田三郎(筑波大学)
・五時半から記念パーティー(京大会館)
▽参加費：一般参千円 学生千円
▽パーティー五千円
▽申込方法・葉書に①氏名、②連絡先
(電話番号も)、③パーティー参加の有
無を記入して左記連絡先まで。
▽連絡先・〒606 京都市左京区吉田二
本松町京都大学総合人間学部人間情報
論分野 TEL:075-753-6584(杉万俊夫)
075-753-6557(北山忍) FAX:075-753-
6559

◎第六回日本シミュレーション &

ゲーミング学会開催
日本シミュレーション&ゲーミング学

会第六回大会の開催要領はつぎの通り。
社会心理学関係の発表も多数あり、GD
関係者の参加は大歓迎とのこと。

▽日程・一九九四年九月一六日・一七日
(金・土)
▽会場・大阪工大摂南大学創立六〇周年
記念館 〒535 大阪市旭区中宮五
丁目一六の二九 電話〇六(九五五)
一五五一

▽企画の概要
○個人発表はすべてポスターセッション。
○シンポジウム(ラウンドテーブル形
式)として、社会的影響過程のシミュレ
ーション、軍事戦略のシミュレーション、
外交戦略のシミュレーション、投票行動
のシミュレーション、経営戦略のシミュ
レーション、環境問題のシミュレーシ
ンなどを企画。
○ナイトセッションを初日懇親会後に開
催。会員参加のゲーミングをいくつか用
意して、楽しんで頂く予定。デスマッチ
になるかも。

○懇親会は一日目の夕方に開催。
▽申し込み・個人発表の申し込み締切は
五月末日、発表原稿締切は七月末日。
申し込みは左記連絡先まで文書で。申
し込み者に所定の原稿書式を送ります。

〒五七二 寝屋川市池田中町一七の八
摂南大学経営情報学部内JASAG学
会第六回大会準備委員会事務局
大会実行委員長 木下富雄 電話〇七
二〇・三九・九二五一(ダイヤルイン)
FAX 〇七二〇・三八・六六三一

◎日米ソーシャル・サポート研究集会

九月に岡山大学で開催
ソーシャル・サポート研究者として著
名なアーウィン・サラソン教授夫妻(ワ
シントン大学)による講演と日本のサポ
ート研究者等による研究発表(ロングスピ
ーチ)の集いが開催される。グルダイ会員
の参加大歓迎。
▽日時・一九九四年九月二一日(水) 午
後一時—五時。

▽会場・岡山大学自然科学研究棟（岡山駅から妙善寺行バス一八分で岡大東門下車）。

▽連絡先・〒七〇〇岡山市津島中 岡山大学教育学部社会心理学研究室田中宏二教授（電話〇八六・二五一・七七二一。FAX〇八六・二五五・七二四四）。

◎対人行動学研究会六年度大会は 社心前日・大阪江坂のホテルで

一九九四年度対人行動学研究会大会の開催要領は左記の通り。奮ってご参加を。▽とき・一九九四年十月八日（土）午後二時より

▽ところ・大阪江坂クライトンホテル（新大阪駅より江坂駅まで電車五分、江坂駅より徒歩二分。関西大学まで約三十分。便利でおしゃれなこのホテルを努力して格安にて手配しました。）（吉川）

▽企画・恒例により合宿形式で実施。当日午後よりお楽しみ新企画のワークショップお待ちします。夕方からは豪華宴会、夜はホテル13階のサウナ、ジャグジーつき展望風呂で（参加者無料）おくつろぎを。ワークショップのみ、宴会のみの参加も可。

当日の宿泊は十分確保しているが、前泊、後泊の希望者は早目の連絡が必要。対人研会員には、追って詳細を知らせるが、ワークショップ企画の希望、その他問い合わせなどあれば気軽に左記宛お尋ねを。

▽問い合わせ先・京都学園大学 吉川肇子（NIFTY:GEG01510、E-MAIL:075-721-9688） またはプール学院短期大学 有馬淑子（NIFTY:GEF01241）

◆九州地区社会・教育心理学研究会（KSEP）の発会

【グルダイおひざ元の九州地区の研究会だよりの寂しさを感じておられたであろう全国の会員諸氏へ、名大在任中は中京地区で活発な研究会活動を奨励した原岡理事から地元久留米で研究会発足の報】

かねてより久留米大学その他の社会心理学と教育心理学の研究者から望まれていた九州北部の心理学研究会KSEPが発足しました。

他地区の研究会の動向などを参考に、「社会心理や教育心理に関心のある人なら誰でも参加でき、何でも言える会にしよう、特に大学院生など若手研究者や企業・教育関係者で関心のある方を大歓迎する」というのが発足時の姿勢でした。

第一回の研究会合は、本年一月二日（土）午後一時半から五時まで、久留米大学文学部心理学研究室で一八名の参加者によって行われました。

発表者と演題はつぎの通り。

一・不確定性への志向性と社会的影響 安永 悟氏（久留米大学）・甲原定房氏（九州大学）

二・不確定性への志向性とその測定につ

GD会員へのお誘いと報告

研究集会・地域別合評会②

いて 甲原定房氏・安永 悟氏

地元久留米をはじめ、熊本、佐賀、大分、北九州、福岡から集まった大学や現場の研究者と大学院生たちは、予定時間を一時間オーバーして真剣な討議を行い、発表者も参加者も有意義だったという感を深めました。

その後、自由参加の懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中で第一回の会を閉じました。研究会はおよそ一ヶ月おきに開催しようと考えています。

次回は四月二日（土）午後一時半から、

①釘原直樹氏（九州工業大学）によるパニック実験「集合避難行動」と、

②原岡一馬氏による「集団全体のパフォーマンスに対するスキナー流の強化スケジュールの違いが集団内の個人のパフォーマンスの時系列的変動と消去抵抗に及

ぼす効果について」が予定されています。連絡先は久留米大学文学部心理学研究室責任者は原岡一馬氏、連絡担当者は安永悟氏です。（電 0942-43-4411内線83）

◆SDC (Social Psychology of Clothing) 研究会

発足以来六年目に入ったSPCは、現在「被服と身体装飾の社会心理学（下巻）の刊行に向けて活動中である。（高木修）

◆広島実社心研合評会

【着実に続いているのは二次研のせい？名称はともかく、月二回だと実社心研だけでは素材が不足しがち。他誌にも当然批評を加えています。】

広島大学では、社会心理学者有志による実験社会心理学研究会合評会を実施している。

GD会員へのお誘いと報告

研究集会・地域別合評会②

▽十二月十八日 発表者 神蘭紀幸・立元 真 他誌論文

於・広島大学総合科学部

▽一月二日 話題提供者 山口裕幸

「集団意思決定場面における多数派形成メカニズム」於・広島総合科学部

▽三月五日 発表者 神山貴弥 33巻2号

吉田寿夫ら「児童の態度および行動の改善に対する説得の効果」於・似島

※この日は本合評会主要メンバーの祝賀・送別会を兼ねて似島の民宿に合宿した。夜は魚介類中心の豪華な夕食を囲みつつよもやま話を花を咲かせ、そのまま半徹夜状態に突入した。じつくり勉強した後は充実した気分転換、というのが本合評会の特徴である。

▽四月二日 発表者 坂田桐子・木村厳弘

他誌論文 於・広島大学総合科学部

▽四月十六日 発表者 神蘭紀幸・原田耕太郎 他誌論文 於・広島総合科学部

合評会を一月に1〜2回のペースで開催すると最新号の邦文掲載論文はほぼ読み尽くす形になってしまったため、最近では社会心理学研究や心理学研究の論文が取り上げられることも多くなった。

また、本合評会も定例となつて三年目になるが、この一年間は、論文を読んで批評するだけでなく著者本人を招いて討論したり、会員の研究発表をしてもいいのではないかと、という意見が頻りにあがっていた。そこで、一月二日には岡山大学の山口裕幸氏に参加してもらい、氏の最近の研究について発表してもらった。

最初は御本人を目前にして沈黙しがちだった討論だが、そのうち当人に聞かなければわからない実験方法の詳細や、常々疑問を感じていた点などについて率直な討議が交わされるようになり、普段とは違う手ごたえを実感した。もちろん、その後会場を繁華街に移して合評会夜の部が盛大に行われたことは言うまでもない。

※広島大学実社心研合評会では、広島に限らず中四国・九州地方からの参加者を歓迎致します。参加希望者には案内状を送付致しますので、左記まで御一報ください。

広島大学総合科学部

黒川正流 Tel: (0824) 24-6579

坂田桐子 Tel: (0824) 24-6578

教官公募

広島大学総合科学部では昨年度の公募に引き続きさらに一名の社会心理学担当の教授または助教授を公募しています。学部の社会心理学関連科目（集合行動論）と大学院博士課程の指導担当が予定されます。公募締切日六月三十日（木）必着です。

詳細は電話〇八二四・二四一六五七九の担当者・黒川正流まで。

☆☆計算機端末で情報交換しませんか

「対人心理学ネットワーク」の紹介☆☆
対人心理学研究会では、便利で安価な情報ネットワークを模索するため、有志によりE-mailを使用したネットワーク・システムを今年一月から試験的に開設してきました。システムの中枢は現在のところ東京学芸大学にあり、ユーザーが東京学芸大のUNIXマシンあてにメールを出せば、そこに登録してあるネットワーク参加者全員に自動的にそのメールが配送されるというものです。初めのうちは接続の方法やトラブルに関する話題が中心でしたが、最近どうにか運用も軌道に乗り始めました。そこで、このネットワークをより広く有効に活用するため、この三月より対人心理学研究会から切り離し、名称を「対人心理学ネットワーク」として独立させることになりました。従って、今後は対人心理学研究会とは関係なく、対人関係（行動）に興味を持つ研究者一般に自由な意見交換の場として開放することになります。

具体的な使用方法としては、誰かの論文を選んできて合評会のようにしたり、担当者が何かのテーマを出して、それについて討論したり、といったことを考えています。参加者は現在のところまだ二十名程度ですので、対人関係に興味のある方、話題をお持ちの方は是非ご参加ください。E-mailアドレスをお持ちの方はどなたでも参加できますし、NETTY-Serve等、Internetと相互にメール交換ができるものであればアクセスが可能です。ルールや運営方針など、まだ流動的な部分もありますが、意見交換の場として大いに活用していきましょう。

参加（登録）方法・ご自身のE-mailアドレスから、tajim@u-gakugei.ac.jp あてに以下のメールをお送りください。
mailx.tajim@u-gakugei.ac.jp

Subject :

help

IP接続されていれば、メール送信後、

すぐにHelpファイルが送られてきます。

Helpファイルが無事届けば、これで自動的に登録が完了したことになりますので、直後からメールが配送されて来るはずですよ。なお、Helpファイルには、このシステムの概要説明やルール等を記載したファイルの受け取り方が書いてありますので、それらも必ずご参照ください。

お問い合わせは、現システム管理者の和田実氏（東京学芸大 E-mail: wada@u-gakugei.ac.jp）まで。

文責：広島大学総合科学部 坂田桐子
E-mail アドレス・

H060135@ueipc.hiroshima-u.ac.jp

☆☆「求む！ 研究交流」☆☆

韓国の国立忠南大学 (Chonnam National University) 心理学部の Gyuseog Han 博士から、日本GD学会員との研究交流を求める手紙が学会事務局に届いています。ハン氏は、韓国心理学会とAPAの会員であり、葛藤、相互作用あるいは文化の分野が研究主領域。同好の士で韓国との研究交流に関心のある会員は、つぎの宛先に英文で連絡を。

Gyuseog Han ph.D
Department of Psychology
Chonnam National University
300 Yongdong-dong, Kwangju, 500-757
S.Korea

☆☆海外研究者の動向☆☆

【来日】

○Burnstein, Eugene (シンガン大学教授) 博士夫妻、学術振興会短期招聘により京都大学へ、四月二十六日大阪着、広島・熊本・短期訪問後、連休後は関西に滞在、六月二十日大阪から離日予定
○Zimbardo, Philip (スタンフォード大学教授) 博士、十月二日来日、同四日・日本心理学会で講演、十月九日・日本社会心理学会で講演、十日離日予定。
【移動】Zajonc, Robert & Markus, Hazel 博士夫妻は九月にシンガン大学からスタンフォード大学に移る予定。

自著をよろしく！ GD学会員が出した本

- 南 隆男・浦 光博・角山 剛・武田圭太著「組織・職務と人間行動」 ぎょうせい 3,300円 (1993年1月刊行です)
- 浦 光博著 「変化の時代、ミドルはどう生きる—変革型リーダーのための人間探求論」 中央労働災害防止協会 価格未定 (4月下旬刊行予定)
- 藤原武弘監訳・E. クルバット著「都市生活の心理学」—都会の環境とその影響— 環境と人間シリーズ 西村書店 ¥4,635.
- 水口禮治著「大衆の社会心理学」 ブレーン出版 ¥2,800. 著割 キーワード：群衆、パニック、
- * 水口禮治著「適応の社会心理学的心理療法」—コントロール・トレーニングの理論と実際— 駿河台出版 1993 ¥2,000. キーワード：統制可能性、Perceived control、随伴性、無気力、治療
- 無藤隆編・川浦康至他著『教育心理学用語辞典』学文社、4月15日ごろ発売、¥2,500. 総ページ320、項目数1000、人名50. 周辺領域にまで目を配った意欲的な構成。著割20%、川浦氏へ一報。
- 立川敬二監修、小林宏一・飯塚雄一・徳永幸生・高井次郎・岡本真一郎・古澤照幸・益谷真・飯塚久夫・大石裕・川浦康至 著「コミュニケーションの構造」NTT出版、1993、¥2,400. 著割 人間・社会・組織といった切口から理論や現象の再構成が図られた見通しのよいコミュニケーション論。
- 高木修・神山進監訳・被服心理学研究会訳・S. B. カイザー著「被服と身体装飾の社会心理学 (上巻)」 北大路書房 ¥2,800. 著割 社会的相互作用における被服や外見の重要性を考察。キーワード：被服、身体装飾、被服象徴、非言語情報伝達
- 松井豊編「ファンとブームの社会心理」 サイエンス社、¥1,800. 若い研究者との共著、ユーミン・小田和正・血液型・タカラヅカ・大相撲・雑誌・「やさしさ」など、ブームやファンになっている事象を取り上げ、データに基づいて分析。流行の研究略史や研究方法も紹介。
- 堀洋道・山本真理子・松井豊共編「心理尺度ファイル—人間と社会を測る—」 垣内出版、¥9,800. 自己・動機や感情・対人関係・ライフスタイル、ストレスや問題行動など、社会心理学だけでなく臨床心理学的な尺度まで、日本で開発された104の尺度を紹介。「ぐるだいいニュースでみた」と出版社 (03-3260-4982) へ電話で1割引。
- 高橋純平・藤田綾子編「コミュニケーションとこれからの社会」 ナカニシヤ出版、¥2,400.

◎実験社会心理学研究三四巻以降の掲載
待ち論文(平成六年四月九日現在)

『実験社会心理学研究』編集委員会によれば、四月九日現在、投稿論文の審査状況はつぎの通りである。

☆一般号 投稿数 二十一編(原著十八編中審査通過掲載待ち九編、展望一編
中同一編、資料二編中同一編)

☆英文号 投稿原著三編審査未終了

※掲載待ち論文の著者・題目

○松尾睦「セルフハンディキャッピング方略としての努力低下と課題選択」

○清水裕「失敗経験と援助行動意図との関係について―低下した自尊感情回復のための認知された援助の道具性―」

○久保真人・田尾雅夫「看護婦におけるバーンアウト・ストレスとバーンアウトとの関係」

○高橋超・大迫弘江「対人的葛藤事態における対人感情及び葛藤処理方略に及ぼす『甘え』の影響」

○秋山学・竹村和久「不快感情と関与が意思決定過程に及ぼす影響」

○矢守克也「社会的表象としてのメンタルマップに関する研究」

○奥田秀宇「恋愛関係における社会的交換過程―公平、投資、および返報モデルの検討―」

○川西千弘「印象変容過程における第三者の影響―セルフ・スキーマ、『思考』及び情報的信憑性との関連で―」

○潮村公弘「ステレオタイプの認知とカテゴリー化の情報関係について―対人

記憶、印象評定に及ぼす刺激手掛かりの効果」

○上野徳美(資料)「説得的コミュニケーションに対する被影響性の性差に関する研究」

○淵上克義(展望)「最近の社会的影響手段に関する研究の動向—Upward Influence 研究を中心として—」

☆スピーチ、スポーツ、テストにおける「あがり」及び「Locus of control」に関心のある方と共同の仕事をしたと思っています。ご連絡をお待ちしています。(立教大学・水口禮治・電話〇四二九—四二—五五二二)

◎オピニオン

社会心理学と重複会員が多いことや、発表領域も大部分重複していることを直視すると、両学会が別々でいることの意味と存在感が薄れているように思える。スタート時の理念と存在理由に拘ることなく、もはや合体の方向を模索するのが賢明で時流的な策だと思いますが、如何でしょうか。学会が細分化し、各自多重所属の昨今、その所属・参加に負担と迷いを感じている会員諸氏の多くは、同じ気持ちでおられるのではないかと推察されますので、意向調査を行って施策に反映してみたら如何でしょうか。幸い、両学会の役員を共通に経験した者が多いと思いますので、学会の歴史とか未練に拘らなければ、折衝もしやすいのではないのでしょうか。余りにも極端な意見でしょうか。(立教大学・水口禮治)

★公告の訂正★

十二月七日付の会則改正公告のうち、会則改正案六条(入退会)「所定の書式による」を「所定の書式により」に、会則細則二二条3(6)「理事長としての」を「会長としての」に訂正してお詫びいたします。訂正文を本文とします。

G D学会事務局・常任理事(担当)

◎四十三回大会開催を学習院大に依頼
常任理事会は平成七年度の日本グループ・ダイナミックス学会第四十三回大会の主催を、学習院大学(委員長・中村陽吉常任理事)に依頼することを決定した。これが実現すれば第二十七回大会(一九七九年・永田良昭大会委員長)以来十六年ぶりの目白大会となる。

◎GD学会員の紀要等発表論文題目

(抜き刷り請求は各著者へ)

○松本芳之・湯田彰夫 1994 矛盾する行動記述の統合過程と属性判断に関する実験的研究—文章理解からみた印象形成の実験、信州大学教養部紀要、38、285—300 キーワード：social cognition, impression formation, attribution, schema, text, understanding

○村田光二 1994 「血液型性格判断」はなぜ信奉されるのか—実験的「社会的認知」研究への一つの招待—、一橋論叢、111、733-751、キーワード：血液型ステレオタイプ、偶然事象の誤解釈、選択的情報処理、仮説確認傾向、偏見
抜刷入手法：〒126 国立市中2-1 一橋大学社会学部 村田光二

(なお、この雑誌はほとんど一橋大学の学内誌のようなものですが、日本評論社から市販されています。平成6年4月号¥1,070)

○神山進・高木修 1992 リスク敢行としての消費者行動、彦根論叢(滋賀大学)279・280号、241-271。

○神山進・高木修 1993 「知覚されたファクション・リスク」にもとづく商品分類法、繊維製品消費科学34、548-560。

○水口禮治・他 1992 「あがり」に関する心理学的研究(1)—立教大学心理学科研究年報 35、19-28。

○諸井克英 1994 玩具を媒介とした性役割の継承に関する基礎的研究(2)—短大生・大学生におけるきょうだい構成の効果を中心として—
○遠藤由美・西芳弘 1993 青年期にお

ける自己評価の研究—認知された自己の諸領域との関係— 上越教育大研究紀要 13.1、111-120。

○田中共子・高井次郎・神山貴弥・藤原武弘 1993 在日留学生に必要なソーシャル・スキル 広島大学総合科学部紀要VI理系編 19、87-99。

○藤原武弘・神山貴弥 1993 映画刺激の単純性・複雑性と認知欲求が映画に対する評価に及ぼす効果に関する研究 広島大学総合科学部紀要VI理系編 19、101

◎編集後記

☆GD学会員の電子メール事情考☆

*本紙一号の編集時には復信三五通とファックス五通を貰うために七百名の会員に往復はがきで取材しました。これに懲りて二号の編集取材は号外記事にしましたが、会員からの反応は全く失敗。

*隣の若手編集部長が何やら楽しみに端末のキーボードを叩いて情報(おしゃべり?)をやり取りしています。時には海外とも。これだ、電子メール! こちらの机上から各大学の計算機に接続した会員の机上端末にいきなり原稿依頼、そして反応時超短縮!の期待を胸に。

*メール・アドレスがわかりませんので対人研を中心に編成されたネットワークに依頼文を流して貰いました。(高齢会員には電子メールのやり方が理解できるかな? ケリーさんにもマークスさんにも、国際学会や東大の教授にも、やれば簡単に交信できます。)

反応三通……誰が読んでくれたのかヘンジナケレバワカラナイ。

*ニフティ・サーブというパソコン通信のネットを「存じますか(同様の民間ネットは他にもいくつかあるようです)?」

電気屋さんでパソコンと電話機をつなぐモデムという器具を購入して、ついでに買ったニフティの説明書に従ってネットに加入しました。「会員情報」で見覚えのある社会心理関係者を探し(七千名から拾えたのは約三十名)、まとめて同文

依頼を送信。こちらはいっ誰が読んだかすぐわかる仕組みです。

*村田さん、川浦さんの反応時バグン! そして松井さんも。村田さんにお願いで対人研関係者のニフティ加入者名簿を拝見し、GD名簿とつきあわせて四十九名のリストができました。氏名非公開にしている人を除いて「記事ネタ依頼」を送信。

*結果報告。発信総数六十三通。読まれたのが当日十七通、翌日十通、翌々日五通、それ以上二週後まで九通。まだ読んでくれない人二十二通。記事ネタをくれた人「四」人でした。「タベナキヤトレナイかるしゅうむ」と思いました。

*あきらめず、会員名簿更新時には、電子メール・ニフティアドレス・ファクシミリ番号を掲載しようと考えています。ご協力をよろしく。(黒)

*三月中に発行しなければならなかったのに、もう四月も終わろうとしています。たいして責任のない「お手伝い」の立場ではありませんが、記事集めの難しさをしみじみ感じた今回の編集作業でした。文責者とか問い合わせ先の部分に私の名前が多いことが、如何にネタがなかったかを物語っているのではないのでしょうか。

どうすれば学会員に有益な情報紙になるのか、記事募集の方法から考えなければいけなかったのです。(桐)

*ところで、入会手続きに関わっている感ることですが、自分の所属する研究科や課程名をご存じない大学院生さんが増えたようです。〇〇大学大学院〇〇学

研究科、博士課程前期なのか修士課程なのか、そして博士課程後期のなのか、少々複雑でしょうが正確に記入をお願いします。学歴だっておなじこと。(大学院生に限ったわけではありませんが。)入会申込書の書式見本をお届けします。新会員の加入を勧誘してください。

*春は移動の季節、転居や所属変更は学会事務局(福岡)にもお忘れなく。編集部に届けられても困ります。(黒・桐)